季時珍：**本草綱目** 16世紀の名著，菜部の芝栭中に31種を解說している。

陳仁玉：**菌譜**（1245）宋代に成るもの，浙江省，臨海縣台州地方產のキノコ27種を解說す。原本所在不明。

吳林息園：**吳蓴譜** 康キ癸亥年（1662）以後に成るもの，長洲產25種を解說する。寫本（科博）は岩崎灌園の自筆，白井光太郎博士を經て川村清一氏の舊藏であつたもの。

以上を要約すると，これらの本草書に現れた菌類中では，明に同定することの出來るものもあるが，また同定困難で，强ひて研究することの無意義なものも甚だ多い。アワタケ類，ホコリタケ類，スツポンタケ類が毒キノコとして扱はれて居るが當時としては自然であろう。各地の方言を知るにはよい資料となる。信州のオショウニン，日光のジョウゲンボウ等は現在でも一般に用ひられている方言である。チャダイゴケなどの微小なものが既にキノコの一種として當時知られて居つたことは興味深い。オニク，オニノヤガラ，ギンリヤウサウ，ハマウツボなどが菌に準ずるものとして取扱はれて居るが，これは歐洲の古文獻に *Balanophora* の如きが菌として扱はれて居つたのと東西規を一にしている。

○我が國に於ける泥盆紀植物の初發見について（小倉謙）Yudzuru CGURA: On the first discovery of Devonian plants in Japan.

北支や滿洲には上部古生代植物がかなり廣く分布し，その一部は朝鮮にも存在するが，日本群島には未だ知られていない。日本產の古代植物としては只斷片的の化石が發見せられたに過ぎない *Sigillaria* (*Favularia* 型)が靜岡縣から（藤井 1915），*Calamites* が島根縣から（矢部・遠藤 1921）などが發見せられたに過ぎず，しかもこれらの化石は斷片的のものであるが，恐らく陸地から海中に流出して化石したものと思はれる。

然るに橘行一氏がかねて研究中の泥盆紀產の植物化石を *Leptophleum* cfr. *australe* (Mc Coy) 及 *Cyclostigma* sp. として發表したが（學士院紀事 26, 1950），これは標本の豊富な點と我が國に於ける泥盆紀植物の最初の記錄，且つ又最古の陸生植物の發見として特筆すべきものと思ひ，こゝにこれを紹介する。

產地は岩手縣東磐井郡長坂村と田河津村に亘る地域で，そこは *Spirifer verneuli* などの動物化石が產して中倉層と呼ばれる部分で上部泥盆紀に屬し，問題の植物はこれら動物化石と共に產するので，附近の陸地に生えていたものが海底に沈積して化石したものであらうが，少くともこの附近に陸地があつたと考へられる。*Leptophleum* は *Lepidodendron* の1型の幹の表面の印痕で菱形の葉褥が螺旋狀に密生して排列し，その各の中央上部に小さい葉痕がある。又 *Cyclostigma* も *Lepidodendron* 類似の種類の幹で菱形の葉褥がなく葉痕だけが粗に螺旋狀に排列しているものである。尙これらの外に細い莖に鱗片葉が密生している標本もあり，前者の枝の先端と思はれる。これらの標本は東京教育大學地質學教室に保存されている。